

宮崎県市町村・地域づくり団体等協働モデル事業

五本松団地跡地を活用した「滞在したくなる場」づくり事業

三股町まちづくり研究会

三股町

事業名：五本松団地跡地を活用した「滞在したくなる場」づくり事業

1. 【団体の概要】

三股町まちづくり研究会は、まちづくり全般に興味関心のある町職員5名で構成する団体で、令和2年に発足した。

本町は、「交流拠点施設整備事業」というプロジェクトを進めており、官民連携の手法も導入し、町民参加型での施設整備を目指している。そこで、まずは行政職員が主体的に参加・実践する体質になることが大切ではないかと考え、結成に至った。

2. 【事業の目的、ねらい】

町内の地域活動団体や周辺の大学や地域団体等と協働し、地域資源を活用したまちづくりに関するアイデアを出し合い社会実験的に実践することで、町内において新たな協働のあり方を模索することなどを目的に事業を実施した。

本事業では「町営五本松団地跡地」という施設整備予定地を活用し、町民と協働で実施し、新たな協働の在り方を模索した。

3. 【活動内容】

五本松団地跡地を活用した「滞在したくなる場」づくりに向けて、地域活動団体や大学等と協議を重ねながら、大きく分けて①花の苗植え体験②ハートな絵の制作の2つの活動を行った。どちらの活動も、できる限り、企画を練っていく段階から共有する場を設け、まちづくり研究会としての目的だけではなく、各団体のニーズを聴きながら実施に向けて動くことを意識した。具体的な活動内容については以下の通りである。

■みまたのハートスポットをつくろう！①

令和4年10月29日（土）9：00～12：00

参加者：34名

協働相手：前目温故知新の会

タネまき企画 牛牧沙智子

藤元メディカルシステム附属医療専門学校

都城工業高等専門学校 建築学科 杉本研究室

宮崎大学地域資源創成学部地域交流デザイン研究室

活動内容

- ・前目温故知新の会による竹プランターづくり体験WS
- ・花の苗植え体験
- ・ハートな絵を描こう！



■ふるさとまつりにて「ハートな絵大募集！」コーナーの設置

令和4年11月13日（日）9：00～17：00

参加者：約50名

協働相手：三股町ふるさとまつり実行委員会
がんばっど山王原

活動内容

- ・ハートな絵を描こう！



■みまたのハートスポットをつくろう！②

令和4年11月27日（日）10:00～12:00

参加者：18名

協働相手：前目温故知新の会

みまたん♡ミライカイギ

藤元メディカルシステム附属医療専門学校

宮崎大学地域資源創成学部地域交流デザイン研究室

活動内容

- ・ハートな絵を描こう＋道路沿いの設置作業



4. 【事業の成果、効果】

●まちづくり研究会以外の団体同士での協働や交流の広がり

本イベントでは、単発のイベントではなく、まち全体に活動は波及していくことを意識して、企画の打ち合わせ段階から多団体に呼びかけを行ったことで、本イベント終了後に、前目温故知新の会とタネまき企画の牛牧氏との共同企画による「花」をテーマにしたまちづくりイベントの企画や、宮崎大学の学生と三股町地域おこし協力隊によるまちあるきイベントの企画が立ち上がるなど、次に向けた動きが生まれつつある。

また、これまでは個別に活動していた、前目温故知新の会とがんばっど山王原から、「お互いの活動を知りたい」、「もっと連携した企画が考えられないか」という提案もいただいているため、現在、立ち上がっている企画を通して、団体同士の新たな協働に広がっていくことが期待される。

5. 【まとめ】

この事業では、「新たな協働のあり方を模索すること」「まちづくりの自分ごと化につなげること」を目的に置きながら取組を進めてきたが、今回実際に実践したからこそ見えてきた協働のあり方や今後三股町で協働の広がりを生むために必要なスキルや知恵、つながりを得ることができた。この事業を通して得られたことは大きく2つある。

1つは、「**お互いの話を聴き合うことから始める**」ということ。過去に実施した事業を振り返ってみると、活動を通して協働相手が広がったとしても、単発的に終わってしまいその後の協働の広がりが生まれにくいという課題も感じていた。そのため、今回は「協力してください」とお願いする、されるという関係性ではなく、企画を練る段階から多団体を巻き込み、進捗状況を細かく共有していくということを意識的に行った。共有する範囲を広げることで、様々な意見が出され時間がかかってしまうという点もあるが、話していく過程で「花を植えるならこの人にアドバイスをもらおうとよい」「せっかく植えるなら沿道沿いに植えた方が多くの人に見てもらえるのでは」など事業をよりよくしていくために必要なアイデアや意見が積極的に出された。また、「町の中心地だけではなく広くハートスポットを広げられないか」といった次の企画に向けた話し合いも自然と生まれている。今回の経験を通して、まちづくりを「自分ごと化」してもらうのではなく、それぞれの中にある「自分ごと」の話や「やってみたいこと」などをまずは“聴き合い”ながら、それを形にしていこうとする中で自然と協働が生まれるということを実感として学んだ。

もう1つは、まちへの関心を高めるためには「**参加型で行う**」ということ。ハートな絵を描こう！の企画では、町内の子どもたちに広く絵を描いてもらい、描いてもらった絵は道路沿いに飾ることで、通学路が思い出の場所となることを目指して実施した。また、子どもたちに絵を描いてもらうための下準備を藤元メディカルの学生さんたちと協働で行ったり、ふるさとまつりでは、がんばっど山王原の皆さんと一緒に呼びかけを行ったりなど、実施の過程も含めて参加型で進めることにより、まずはまちなかでの思い出を増やすこと目指した。参加型のやり方で進めたことで、絵を描いた方が見に来られるだけでなく、SNSで感想を発信したり、道路沿いのゴミ拾いを自主的に行ったり、宮崎大学の学生さんたちによるまちあるきの企画が立ち上がったり次へのアクションが生まれつつある。

今回実践を通して生まれたつながりやアイデアの種が消えてしまわないために、引き続き当団体としても小さな実践とお互いの話を共有する時間を意識的につくっていきたい。

